

◆ 事業名 国宝・重要文化財の保護に向けた国産漆の持続的生産

事業団体 日本漆アカデミー

■事業の目的

活用したふるさと文化財の森 浄法寺漆林

国宝・重要文化財の修理に関わる講演、修理現場の見学、ニホンジカ被害研修会及び漆サミット2024を行うことにより、国宝・重要文化財の修理への理解、ウルシ植栽地でのニホンジカ被害及び国宝・重要文化財の保護に向けた国産漆持続的生産の情報共有を図る。

活用したふるさと文化財の森センター

活用した文化財建造物 静岡浅間神社

■事業の内容

(1) 国宝・重要文化財の修理に関わる講演と修理現場の見学

国宝・重要文化財の保護に向けて国宝・重要文化財の修理資材について情報共有を図るため、10月3日(木)～4日(金)に静岡県静岡市の静岡浅間神社で国宝・重要文化財の修理に関わる講演と修理現場見学を行った。10月3日の国宝・重要文化財の修理に関わる講演では建築装飾技術史研究所の窪寺茂氏が文化財建造物の概念等、静岡浅間神社の宇佐美洋二氏が静岡浅間神社での重要文化財の修理等、漆芸家の古込和孝氏と静岡文化芸術大学の小田伊織氏が国宝・重要文化財の修理に関わる国産漆の特性と評価等を講演した。10月4日の国宝・重要文化財の修理現場見学では静岡浅間神社の宇佐美洋二氏が平成と令和の静岡浅間神社における大改修を解説し、国宝・重要文化財の修理資材について情報共有を図った。国宝・重要文化財の修理に関わる講演と修理現場見学には明治大学や日本文化財漆協会等から45名が参加した。

(2) 国産漆の持続的生産に影響するニホンジカ被害の研修会

ニホンジカ(以下、シカ)の被害と防除について情報共有を図るため、10月31日(木)に被害がみられる岩手県二戸市のウルシ林等でシカ被害の研修会を行った。シカ被害の研修会では森林総合研究所東北支所の高橋裕史氏がシカの生態と被害防除について講演した他、二戸市のウルシ林でシカ被害の現地研修を行い、国産漆の持続的生産に影響するシカ被害と防除について情報共有を図った。シカ被害の研修会には二戸農林振興センターや岩手県浄法寺漆生産組合等から16名が参加した。



国宝・重要文化財修理の講演



ニホンジカ被害の研修会



漆サミット2024



漆サミット2024

◆ 事業名 国宝・重要文化財の保護に向けた国産漆の持続的生産

(3) 「国宝・重要文化財の保護に向けた国産漆の持続的生産」と題した漆サミット2024

国宝・重要文化財の保護に向けて国産漆の特性やウルシ林の造成について情報共有を図るため、「国宝・重要文化財の保護に向けた国産漆の持続的生産」と題し、漆サミット2024を11月15日(金)～16日(土)に塩尻市の中信会館、塩尻市立檜川小中学校及び木曾漆器修復工房等で開催した。漆サミット2024では15日午前中の開会式で塩尻市副市长石坂健一氏、木曾漆器工業協同組合理事長小林広幸氏、日本漆アカデミー会長田端雅進氏が挨拶した。その後、重要無形文化財蒔絵保持者の室瀬和美氏が「国宝・重要文化財の保護に求められる国産漆の特徴」、森林総合研究所東北支所チーム長の小野賢二氏が「国産漆の持続的生産を目指したウルシ林の土壌特性」の基調講演を行った。昼食をはさんで「漆」をめぐる学際的な最新の研究成果等に関わる3件のポスター発表を行い、漆液に含まれるタンパク質等について情報を共有した。午後、「国産漆を生かした地方の活性化」に関わる講演を行い、彦十蒔絵マネージャー高禎蓮氏が能登半島地震で被災した輪島塗の再生、酒井産業株式会社代表取締役社長酒井慶太郎氏が木曾ひのき箸を守る取り組み、True Japan Tour株式会社村上堅治氏がインバウンドにおける漆器等の日本の伝統工芸品の魅力、福島県喜多方市産業部農山村振興課主査小野智弘氏が会津漆器のブランド力向上に向けた福島県喜多方市の取り組みを講演した後、国産漆を生かした地方の活性化について議論した。16日にワークショップ「木曾漆器における木地や塗りの特色などを考える」や国宝・重要文化財修復工房見学等を行った他、精漆工場や木曾漆器館を見学した。今回の漆サミット2024には林野庁、福島県、喜多方市等から約100名が参加した。

■事業の成果

- 静岡浅間神社での国宝・重要文化財の修理に関わる講演と修理現場見学により、国宝・重要文化財修理や資材の必要性や課題等を学ぶことができた。
- 二戸市でのシカ被害研修会や塩尻市での漆サミット2024を行うことにより、植栽地で問題になっているシカの生態や防除及び国宝・重要文化財の保護に向けた国産漆持続的生産の重要性について情報共有を図ることができた。

■事業の実施後の課題

- 国産漆生産の約8割を占める岩手県二戸市でシカ被害の講演や研修会でシカの生態と防除について学ぶことができたが、被害状況の確認から、防除手段の選定、維持管理、撤去まで防除の総合的な考え方を学ぶことは今後の課題である。
- 国宝・重要文化財修理に必要な資材の持続的生産の重要性がまだ十分に一般の方や行政担当者等に対し理解されていない。そのため、今後、漆サミットの講演会、ワークショップ及びセミナー等を通じ、国宝・重要文化財の保護に向けて資材の必要性を広く一般の方や行政担当者等に普及啓発を図る必要がある。

■今後の展開

- 広く一般の方や行政担当者等を対象に、国宝・重要文化財修理のための修理資材の必要性や課題を学ぶ講演会やワークショップ等を行う予定である。
- 国産漆や国産材の安定供給のための森林の管理等に関わる研修会やふるさと文化財の森の見学を開催する予定である。

◆ 事業名「檜皮葺と茅葺屋根を考える。―寺社建築と民家建築から―」

事業団体	特定非営利活動法人 文化遺産保存ネットワーク河内長野	■事業の目的
活用したふるさと文化財の森	観心寺境内林	○修理用資材の確保に対する支援体制づくり
活用したふるさと文化財の森センター	滝畑ふるさと文化財の森センター	○修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発
活用した文化財建造物	重要文化財山本家住宅	

■事業の内容

(1) 講演会

- ・日 時 9月8日(日)13:00～16:00
- ・場 所 天野山金剛寺講堂及び金剛寺境内(大阪府河内長野市天野町996)
- ・参加者 一般参加者22人／視察者2人／主催者等(講師を含む)5人
- ・演 題 「寺社建築の屋根と装飾 ―金剛寺の魅力再発見―」
- ・講 師 文化財建造物保存修理主任技術者 鳴海祥博先生
- ・内 容 13時に主催者の開講挨拶後、文化財建造物保存修理主任技術者の鳴海祥博先生を講師として講演を行った。講演は、豊富な写真資料を投影しながら行われた。講演後、15時5分に見学会が開始された。金剛寺楼門から龍王三社、食堂、金堂、多宝塔、鐘楼、御影堂、閼伽井屋など境内に存する多くの建造物の屋根を中心に詳細な説明が行われた。主催者の挨拶をもって全日程を終えた。

(2) 檜皮採取の実演と体験会

- ・日 時 9月29日(日)13:00～16:15
- ・場 所 観心寺境内林及び中院(大阪府河内長野市寺元475)
- ・参加者 一般参加者17人／主催者等(指導者・実演者含む)9人
- ・内 容 13時定刻で主催者の開講挨拶の後、天候ため、予定を変更し、13時15分頃から実演会場で原皮師による檜皮採取作業を見学した。また実演会場の屋根模型に檜皮を葺く作業と檜皮を成型する檜皮拵えを解説を聞きながら見学し、その後参加者が竹くぎ打ち体験した。
15時頃から観心寺中院で実演指導者及び講師である川田徳宏氏から檜皮、檜皮葺きについて講義が行われた。16時前には3～4の質疑応答が交わされて、講義を終了後、講師から檜皮葺きの道具についての解説が行われ、16時過ぎに終了した。

(3) 檜皮葺・茅葺文化財建造物の見学会

- ・日 時 10月6日(日)13:00～16:00
- ・場 所 観心寺境内(河内長野市寺元)、楠妣庵観音寺境内(富田林市甘南備)、烏帽子形八幡神社境内(河内長野市喜多町)



講演会の様子



見学の様子



檜皮葺体験の様子



檜皮葺採取の見学



講義の様子

◆ 事業名「檜皮葺と茅葺屋根を考える。―寺社建築と民家建築から―」

- ・参加者 一般参加者16人／主催者等(講師を含む)7人
- ・内容 最初の見学場所である観心寺に到着し、13時15分頃から講師の大阪府教育庁文化財保護課の神谷悠実主査により、観心寺訶梨帝母天堂(重文・檜皮葺)、金堂(国宝・瓦葺)、建掛塔(重文・茅葺)、御影堂(府指定・瓦葺)、行者堂(元茅葺)、恩賜講堂(重文・瓦葺)を順次、主に屋根についての解説があった。14時35分頃に次の楠妣庵観音寺に到着し、14時45分頃から約30分程度観音堂(伊東忠太設計・元茅葺)などの解説があった。最後に烏帽子形八幡神社に向かい、15時30分頃から20分程度、烏帽子形八幡神社本殿(重文・檜皮葺)の解説があった。16時過ぎに主催者の閉講の挨拶をもって解散した。

(4) 茅葺屋根修理現場見学と体験会

- ・日時 12月1日(日)13:00～15:30
- ・場所 重要文化財山本家住宅(大阪府河内長野市小深)
- ・参加人数 一般参加者23人／視察者6人／主催者等(講師・実演者含む)10人
- ・内容 13時定刻で主催者の開講挨拶がありその後、山本家住宅の文化的、建築史的背景や文化財建造物としての特徴などの説明を受けつつ、建造物内部の見学を行った。14時頃には参加者は建物外部屋根葺き替え部分に仮設された足場に場所を移して、修理の施工責任者である大西茅葺の大西謙之氏より屋根葺き替え工事の概要や葺き替え技術についての説明を受けながら、実演者による葺き替え作業を見学した。引き続き、大西謙之氏及び実演者3人による茅葺の実演指導の下、参加者による茅葺体験が行われた。15時30分頃には閉講挨拶により全日程を終了した。



見学会 バス乗車の様子



見学会の様子(観心寺)



山本家住宅説明の様子



檜皮葺体験の様子

■事業の成果

- ・参加者は、重文山本家住宅で屋根葺替修理を見学と一工程を体験することができ、文化財修理における資材調達の重要性や伝統技術承等の重要性について理解を深めた。
- ・参加者の1/3がヘリテージマネージャーで、今後活動する上で役に立ったと評価を得た。
- ・国庫補助事業で実施した重文山本家住宅の屋根修理の現場を会場として市教委の文化財担当の協力を得られ、行政との協力体制づくりにおいて大きな成果があった。
- ・令和4年・令和5年の養成講座に参加者していた建築系学生が、茅葺師の助手として、屋根修理に従事し、今回の体験会において指導する側として参加した。

■事業の実施後の課題

- ・屋根葺体験事業は、現場が狭く多くの人に参加できる現場環境を作ることが課題である。
- ・地元の子供たちの参加が少ないことから地元学校への広報が課題である。
- ・参加者におけるリピーターの割合が高く、新たな参加者を増やす広報方法が課題である。

■今後の展開

今後も引き続き、檜皮葺、茅葺技術の普及啓発を目的として、修理用資材の育成、採取、加工等の体験や実演、展示、保存修理現場の公開と檜皮葺、茅葺文化財建造物の見学会を進め普及啓発事業の効果を高めたいと考える

◆ 森が支える日本の技術 2024公開セミナー

事業団体



公益社団法人
全国社寺等屋根工事技術保存会

活用したふるさと文化財 の森センター

京都市文化財建造物保存技術
研修センター

活用した文化財建造物

清水寺(境内)
園城寺(境内)

■事業の目的

檜皮葺、柿葺、茅葺という植物性の材料を使って葺く伝統的屋根工事技術は世界に誇れる日本の優れた文化の一つであり、これらの技術を後世に伝え残すことが伝統技術を保存する団体としての責務だと考える。そのためには、文化財建造物保護のために必要な植物性資材の原材料の育成及び使用方法(技術)や人材(技術者)の育成を中心として、保存技術について広く一般の方々を対象に普及啓発を図る。そして多くの人に当該事業を通じ、文化財保護における資材の重要性の意識を高め、知識習得の場を提供することを目的とする。

■事業の内容

◆開催プログラム

(1)伝統技術の実演

1. 植物性の資材で葺かれる伝統的建造物を支えるための技術を紹介

日時：令和6年11月2日(土)9:30~16:00

場所：清水寺境内特設テント

対象：文化財修理経験者及び一般

内容：柿葺・茅葺・板割り実演と説明、竹釘打ち体験、
当会制作DVD上映、道具の展示



清水寺境内特設テント

2. 資材確保への取組(パネル展示)

日時：令和6年11月2日(土)9:30~16:00

場所：京都市文化財建造物保存技術研修センター

対象：一般参加者対象

内容：(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会がこれまで
行ってきた資材確保の取組とその資材の重要性を紹介



パネル展示

3. 檜皮採取実演 見学会

日時：令和6年12月8日(日)10:00~15:00

場所：園城寺(三井寺) 境内林(滋賀県大津市園城寺町246)

対象：一般参加者対象

内容：当会檜皮採取指導者による技術の実演

協力：園城寺



檜皮採取実演

(2)資材を育む研修

文化財講座

日時：令和6年11月2日(土)10:00~12:00

場所：京都市文化財建造物保存技術研修センター

講師：京都大阪森林管理事務所 所長 氏橋亮介氏

対象：文化財修理経験者及び一般参加者対象

内容：「国有林による木の文化を継承する森林づくり」



文化財講座

◆ 森が支える日本の技術 2024公開セミナー

(3)リーフレット等広報物の配布

本年度も国内の観光客のみならず外国人も対象に日本版と外国語版のリーフレットを配布。
さらに会場内にモニターを設置し、技法紹介のDVD上映も行いました。

(4) SNSを利用した広報の実施

SNSを活用し、各種プログラムの広報にネット媒体を使用することで、文化財に関心をもつ人材の掘り起こしと、文化財を後世に残すための技術と資材確保のための取り組み、その活動の重要性を一般の方々に紹介しました。



清水寺境内特設テント

■事業の成果

今年度は清水寺での開催日は1日間の開催となり、又あいにくの悪天候も重なり例年と比べて少ない人数の参加者となりました。それでも国内外から多くの観光客が訪れる場所とあって、そして日本の文化に興味を持つ人々が多く訪れることもあり非常に意義のある活動であったと感じています。

園城寺での檜皮採取の実演も、多くの方に見てもらい大盛況のもと行うことができました。普段は山の奥で作業を行うため実際に目の前で作業を見て頂くことは難しく、このように間近で見ただけのことは非常に稀な体験です。檜皮茸というものは知っておられても、その材料はどのように確保しているかを知る機会には中々ないものです。日本の文化の奥にはこのような技術があるからこそ文化財が維持されているということを知って頂くため、今後もこの事業を続けて行きたいと考えております。

■事業実施後の課題

(1)プログラムの内容について

今年度は柿茸の実演と板割りの実演も行いました。刃物一つで薄い板を手作業で作り上げる技に皆一様に興味深そうに見学をされていました。昨年度に続き竹釘打ち体験も非常に好評で多くの方が体験をされました。このように次年度以降もできるだけ参加者の記憶に残るような内容を実施していきたいです。

(2)場所の課題について

観光客も多い京都近郊で事業が行われることは今後も望ましいが、それ以外でも神社仏閣に限らず観光客の多く集まるような場所で行うことも視野に入れておきたい。

(3)広報の課題について

SNS等を使った広報の効果も感じられますが、これからも如何に多くの方の関心を得ることができるかを考えながら地道に取り組んでいきたいです。また、従来のポスターや紙面での広報も少なからず効果もあるので引き続き行っていきたいです。

■今後の展開

来年度は万博も開かれるとあって、より多くの方が日本に注目をしてくると思われます。この機会を逃すことなく多くの方に我々の技と文化を知ってもらうためにも来年度以降も変わらずこの事業を続けていきたいと考えます。そのうえで新たな魅力的な実演や体験の模索、そして時代の流れに即した発信等を考えていく必要があると感じます。そして地道ながらもこの様な活動を引き続き行って行く事で、少しずつではありますが我々の仕事の認知度を向上させ、日本の伝統文化の素晴らしさをより一層、国内外に広めていきたいと思ひます。

◆ 「文化遺産から学ぶ漆」 普及啓発事業

事業団体	日本うるし掻き技術保存会
活用したふるさと文化財の森	浄法寺漆林
活用したふるさと文化財の森センター	
活用した文化財建造物	日光東照宮（日光社寺文化財保存会事務所）、八葉山天台寺

■事業の目的

- ・修理用資材の確保に対する支援体制づくり
- ・修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発
- ・修理用資材の育成・採取・加工に関する活動
- ・修理用資材の育成・採取・加工に関する担い手の確保
- ・修理用資材の育成・採取・加工に関する他組織との連携・情報共有

■事業の内容

(1) 漆の文化と歴史を巡るツアー

実施日：令和6年10月26日（土）～27日（日）

概要：安比川流域における漆文化の歴史を紐解き、当地域において脈々と受け継がれてきた漆文化を体感し理解を深めていただくため、浄法寺漆林での漆掻きの実演や滴生舎での塗師及び木地師の仕事、安比高原ブナ二次林での森林学を学ぶ（一部体験あり）ツアーを実施した。

参加数：7名（一般募集）

行程：盛岡駅＝安比高原ブナ二次林（散策）＝古民家で漆器を使用した食体験（昼食）＝天台寺（見学）＝滴生舎（漆器の説明、買い物）＝二戸市内（宿泊）
二戸市内＝ふるさと文化財の森（漆林見学）＝二戸市内漆林（漆掻き実演見学、体験）＝小西美術工藝社（社屋見学）＝二戸市内（漆器で昼食）＝なにやーと物産センター（買い物）＝盛岡駅

講師等：福田 達胤氏（漆掻き実演、小西美術工藝社社屋見学関係）
斎藤 文明氏（安比高原ブナ二次林ガイド）

(2) 漆林保全管理講習会

実施日：令和6年11月13日（水）

目的：ウルシの木の萌芽更新及び良質な漆を生産するための木の育成方法や漆林の保全管理方法を学ぶ講習会を開催する。

講師：泉山 義夫氏（岩手県浄法寺漆生産組合長）

参加数：一般（漆林保有者）、漆掻き職人等 26名



【漆掻きの実演】



【漆掻きの体験】



【漆うつわ塗の様子】

◆ 「文化遺産から学ぶ漆」 普及啓発事業

(3) 漆掻き技術のPR及び漆を知るワークショップ

実施日：令和6年10月12日（土）～13日（日）

目的：国産漆の最大需要地であり世界遺産や国宝・重要文化財の指定を受けている日光東照宮をはじめとする二社一寺がある日光市内において、漆掻き実演や体験、そして文化財修復を下支えする漆が持つ塗りや加飾、金箔押しで用いられる接着材としての役割など多様な使用方法についてのワークショップを実施し、一般の方々に漆の役割を広く周知する。

内容：① 漆掻き実演 ② ワークショップ（金箔押し、漆うつわ塗、漆のストラップつや出し体験） ③ PR動画放映 ④ 外国人向けの説明やリーフレット（日本語、英語）の配布 ⑤ 道具等展示によるPR

(4) 保存修理現場見学【中止】

実施日：10月13日（日）【変更】

内容：当初計画日程から変更となったため、現場作業スケジュールの調整ができず、一般の観光客を対象とした見学は実施できなかったが、協力団体の案内による参加職人の見学を実施し、職人の意欲向上につながった。

■事業の成果

●漆関連ツアー・・・当市に初めて訪れた方は2名とリピーターの参加者が多かった中で、アンケート結果にもあるように、漆文化を改めて深く学習する行程として、大変満足度があったことが現れていた。ふるさと文化財の森を通じた漆文化のPRにより、再度の来訪意欲につながった。

●漆掻き技術のPR及び漆を知るワークショップ・・・国内旅行者や外国人が多数訪れる日光において、漆掻き実演やリーフレット（日本語・英語）の配布を通じて漆の希少性や、漆が文化財修復へ使用されていることを伝えることができた。また、ワークショップを通じて、より近い距離で漆の活用について周知を図ることができた。

●漆林保全管理講習会・・・モデル林である、ふるさと文化財の森「浄法寺漆林」を活用し、萌芽更新などの作業が、漆原木の確保や良質な漆を生産することに必要であることが学習でき、実際に作業を通じて管理方法を学ぶことができた。

■事業の実施後の課題

漆の文化と歴史を巡るツアーについては、全国的に有名なイベントと日程が重なり、参加者募集やツアー会社のバス手配等の観点を考慮し、日程変更をすることとなった。市外から参加者を募るツアーを企画する際には、その様な観点も配慮して日程を組むことが必要であった。

加えて、市外募集の場合は、募集広報等のツール等に苦慮することもあり、改めて難しさを感じたところである。

■今後の展開

令和2年6月に、二戸市と八幡平市に流れる安比川流域における漆文化が日本遺産に認定となり、同年12月には、当会が保有する漆掻き技術を含む「伝統建築工匠の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録された。

このことから、国内観光客のみならず、外国人観光客への周知も必要であることから、観光地等でのイベントを検討し、漆掻き実演の実施場所については効果的なイベント箇所の選定に努めたい。

また、限られた資源を有効に活用していくためにも、ふるさと文化財の森での萌芽更新等の実施が継続的に行われていく必要があることから、漆林保全管理講習会について検討していきたい。

◆ 美山町北集落の茅の育成・採取・加工に係る普及啓発事業

事業団体 一般社団法人日本茅葺き文化協会

■事業の目的

- 修理用資材の確保に対する支援体制づくり
- 修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発
- 修理用資材の育成・採取・加工に関する活動
- 修理用資材の育成・採取・加工に関する担手の確保
- 修理用資材の育成・採取・加工に係る他組織との連携、情報共有

■事業の内容

●茅(ススキ)の育成・採取・加工等の研修プログラム

①茅刈り体験研修 日時:令和6年11月23日(土) 会場:美山町北集落(重要伝統的建造物群保存地区)の茅場(ススキ) 参加者:70名

参加者は10都道府県から学生や地元住民が中心で平均年齢は33歳であった。美山町北集落では、集落の共有茅場にて降雪前の11月下旬頃から茅刈りを行う。参加者は保存会のベテランに教わりながら刈り方、束ね方、茅ポッチづくりを行った。乾燥しやすいよう束は小さく、直径約10~15cm程度にする。この小束30束ほどを縄で縛り茅ポッチとして立てて、春まで茅場で乾かす。1日でほぼ全域の茅刈りと茅立てを終えることができた。

②-1茅葺き体験研修 日時:令和6年11月24日(日) 会場:美山町北集落(重要伝統的建造物群保存地区)内 葺き替え現場ほか 参加者:58名

雨天のため、前半は屋内で茅葺き体験を行った。参加者は3班に分かれ、美山茅葺きの職人に教わって縄結びや屋根の模型での茅葺きを体験した。屋根葺きは麻殻、稲藁、ススキを順に並べて竹で押さえ、屋根面から針を刺して藁縄を通し、竹を縫い留める一連の手順を行った。その後は地元の職人の案内で集落内を巡った。雨があがった終盤には集落内の屋根葺き替え現場にて屋根の刈り込み体験をした。

②-2茅葺き技術研修 日時:令和6年11月25日(月)、26日(火) 会場:美山町北集落(重要伝統的建造物群保存地区)内 民家の主屋、付属屋 葺き替え現場 参加者:11名

中級の茅葺き職人を対象に、地元の職人らと共に技術研修、技術交流を実施した。北海道、長野、滋賀の職人のほか、熊本、京都の職人が参加。付属屋にて葺き替え研修、主屋で差し屋根研修を行った。まず長い茅を半分に切り、シン(穂先)とカブ(根元)をつくる。1枚目にシン、2枚目にカブ、3枚目に長い茅を葺き、これを2回繰り返して竹で押さえて1段となる。差し屋根は、古いナカオサエの茅を引き出して傷んだところを切り落としてから、その上に新しい茅を差して叩き揃えるという手順で行う。

③茅の育成・採取・加工に係る講義

(1)茅葺き文化講座 日時:11月23日(土) 会場:美山町自然文化村河鹿荘 文化ホール 参加者:45名
神戸大学の藤嶽暢英氏「茅、茅場、土壌のはなし」、保存会の中野善文氏「美山町北集落茅葺きの里の保存と継承」、美山茅葺きの中野誠氏「茅葺きの技術継承」の講義を行った。



①茅刈り体験研修



②-1茅葺き体験研修



②-2茅葺き技術研修



③茅葺き文化講座

◆ 美山町北集落の茅の育成・採取・加工に係る普及啓発事業

■ 事業の成果

(1) 茅採取の技の継承と刈り手の育成

北海道から沖縄まで全国から延べ100名の参加者が集い、京都府美山町北集落にて、茅刈り、茅葺き体験研修、茅葺き文化講座を実施した。降雪の早い美山では、11月下旬から12月上旬に集落の相互扶助で茅刈りをする。本事業を通じて、美山独自の茅採取の方法である、直径10～15cm程度と小さく束ねた茅を茅場に30束ずつ立て、春まで乾燥保管する寒ざらしという技と知恵について学ぶことができた。また、移住者など若い世代の地域住民にも広く共有し、技能の継承と刈り手の育成の一助とすることができた。

(2) 支援体制づくり、茅葺き民家活用の方策

茅刈りや茅葺きに関わる体験をしたいという都市部からの若い参加者が多くいたことから、地元保存会では、見る観光だけではなく、文化財の保存と活用に参画してもらうことの意義や重要性を実感することができた。参加者は茅刈りから茅葺きまでを一貫して体験したうえで集落内の茅葺き民家の案内を受けたことで、美山の茅葺きの特徴と暮らしの中で営まれる茅葺きについて深く理解することができた。茅葺き文化の裾野を広げ、担い手の育成に繋がる貴重な機会となった。

(3) 地域内での世代間の交流の場づくり

北集落では茅刈りを担う住人の高齢化が課題となっている。本事業では、保存会と地元の茅葺き職人、地元の若者企画の茅刈りイベントに参加した観光客、そして高校生や大学生など全国各地からの若い世代を中心とする多くの参加者らが共に茅刈り作業をすることで、地域間の交流だけでなく、地域内での世代間の交流ができ、地元がまとまり協力しあえる交流の場となったことが大きな成果であった。

(4) 地域内での茅の確保と質の向上

美山町北集落では1996年に河川近くの休耕地を茅場として整備し茅の自給をはかってきた。しかし近年は保存会の茅刈り参加者の高齢化と減少により、茅刈りに7日間～最大1か月程度を要し、刈りきれない状況であった。本事業では地域住民に加えて都市住民や職人らの参加協力を得て共同することで、茅場全域の茅刈りと茅立てを1日で行うことができた。このような仕組みを継続できれば、茅場の維持管理にもつながり、茅の質と量の向上も期待できる。

(5) 茅葺きの技術交流と技術の継承

美山の茅を使った技術研修を通して、参加した職人は、美山の茅に合った葺き方を学び、地域ごとの茅の特性と葺き方や道具の違いを共有し、技術交流をすることができた。これを通じて、職人同士がそれぞれの地域特性を再認識し理解する貴重な機会となった。また、地元の若手の茅葺き職人にとっては、ワークショップや技術交流の講師役をすることで、地域の技と知識をより深く理解する機会となった。

■ 事業の実施後の課題、今後の展開

(1) 地域内での茅の確保、茅場の再生と拡大と維持管理

現在は高齢化等により茅の自給が難しく、阿蘇など他地域の茅を多く使用している。しかし輸送費や保管費などの経費が高騰しており、地域内での茅の安定供給が茅葺き民家を維持するうえで課題である。また、茅の耐久性の変化も近年課題となっている。

今後、茅の質の向上と安定供給のために茅場の野焼きを再開する。そのための安全管理と維持体制も整備する。そして重伝建地区の茅材の生産地として集落の共同茅場をふるさと文化財の森に選定することが望まれる。また、昭和後期に集落の裏山の茅場に植林された樹木を伐採し再び茅場として整備する。

(2) 茅葺き民家の空き家の活用

伝建地区内でも高齢化と過疎化が進み、10軒程度の空き家があり、この利活用と新たな定住促進などの取り組みを保存会で検討することが喫緊の課題である。

(3) 支援体制の整備

本事業では広範な人々の参加協力を得て茅場全ての茅刈りと茅立てを1日で終えることができた。本事業で形成された体験プログラムを生かし毎年の年中行事として持続することで、茅の安定自給と担い手の育成、茅葺き文化財の普及啓発に大きく寄与できる。